令和7年度 学校自己評価計画　　最終報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標		具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	最終結果	分析（成果と課題）
1	授業実践力の向上	授業を考える上で必要な単元計画を見直すことを通して学校全体での授業力向上につなげる。「単元計画シート」を作成し、指導案検討会・整理会を通して、情報を共有し、意見を出し合い、「単元計画シート」を再構築することで指導力向上を図り、次の教育活動に生かしていく。	学習支援課	昨年度まで取り組んでいた「教科ファイル」は、作ることが目的になってしまったという課題が残った。授業力の向上には個々の授業を見直すことが大切ではないかとういう意見があがった。そこで、今年度は各々が単元計画を見直すことを通して、授業力の向上につなげようと考えた。	【努力指標】（教員） 授業改善の取り組みとして「単元計画シート」を活用した指導案検討や授業実践、振り返りを行う。単元計画を見直すことで、児童生徒が主体となって学ぶために、効果的な授業の組み立てや、教材の提示、発問、ICT活用等を探ることができたか把握する。	「単元計画シート」を有効に活用して、授業改善を行うことができたと考える教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	「単元計画シート」の活用について教員にアンケートを実施。その結果、指導案検討や授業実践において有効であると回答した教員の割合は93%であり評価はA。 【A：80%以上である。】	指導案を作成する際に検討する単元の目標や指導・評価計画に絞った「単元計画シート」を独自に作成し、それをもとに指導案検討や授業実践、振り返りを行った。話し合う内容が焦点化され、具体的に話し合うことができたことで指導案や単元計画の改善につながったという声が多かった。今後も授業力向上につながる取り組みを続けていきたい。
2	地域社会との連携	地域の学校や施設との交流を通して、交流受け入れ先の関係者が特別支援学校の教育について理解を深め、お互いの交流内容の改善につなげる。 また保護者が交流活動についてどのように感じているか把握し、活動内容を改善工夫することで児童生徒が地域社会で生き生きと活動する姿を目指す。	総務課	昨年度は震災後に活動範囲や受け入れ施設が限られる中で、各学校や特別養護老人ホームでの交流活動や、地域の商店や仮設住宅での販売活動などを行った。児童生徒も地域の方々も関わりあって、互いに楽しい時間を過ごすことができ、継続していくことが大切であると感じた。	【満足度指標】（交流相手） 地域の受け入れ先関係者にアンケートを実施し、児童生徒と関わり合う中で、心地よい関係性を築いたり、互いの理解につながったりしていると感じているか把握する。	交流活動を通して、児童生徒と心地よい関係性を築き、互いの理解につながっていると感じている割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	交流先の児童生徒にアンケートを実施した。小学生のアンケート結果は「とても楽しかった」が80%、「楽しかった」が20%で好意的な評価が合わせて100%、中学生のアンケート結果は、「とても楽しかった」が8.3%、「楽しかった」が33.3%であわせて41.6%、高校生は互いに知ることができたかという質問で「大変そう思う」が80%、「そう思う」が20%となり、小中高を合わせると「とても楽しかった」「とてもそう思う」が48%、「楽しかった」が25%で合わせて74%となり評価はB。 【B：70%以上である。】	今年度、学校間交流は延べ10件、地域交流は延べ4件行った。小学生や高校生は、ほぼ全員が「心地よい関係性を築くことができた。」と感じたようだが、中学生は「楽しく有意義な時間だった。」と感じた生徒が半分以下であった。約4分の1の生徒が「輪島分校のことを知らなかった。」と答えており、コロナ禍や震災があり、数年間交流活動がなかったことが影響していると考えられる。また、「緊張した。驚いた。」という感想があり、もっと生徒同士が互いを知り、関わりながら楽しめる活動を工夫することが必要だと感じた。交流先の教員や担当者からは、「有意義な活動であり、これからも継続することで互いの理解が進むことを期待したい。」という意見が多かった。
					【満足度指標】（保護者） 保護者に活動内容や児童生徒の様子を伝え、アンケートを実施し、児童生徒が地域の方と関わり合い、地域とつながりを持つことができる有意義な活動であると感じているか把握する。	児童生徒が地域の方と関わり合い、地域とつながりを持つことができていると保護者が感じている割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	輪島分校の保護者にアンケートを実施した。回答者12名のうち、「つながりが持てる、とても有意義な活動」が66.7%、「まぁつながりが持てる、有意義な活動」」が33.3%で有意義であるという評価が合わせて100%で評価はA。 【A：80%以上である。】	回答してくれた保護者はおおむね地域や他校との交流に好意的で、「地域とのつながりが持てる活動」と考えているようだった。アンケートでは、今後もいろいろな形で地域との交流を続けてほしいとの意見もあったので、どのような交流が可能か考えながら続けていきたい。
3	安心・安全な学校作り	学校危機管理マニュアルを全員で見直し、現状に適したものに修正することを通して、常に児童生徒の安全を意識し、緊急時に即対応できるような対応力を身につける。 職員会議後10分間 地震、火災、原子力事故発生時の対応 児童生徒不明時の対応 不審者侵入時の対応	生活支援課	危機管理マニュアルを、現状に合わせて全教員で見直し、日頃から児童生徒の安全を守る意識を持つことや、災害や非常事態が起きた時に落ち着いて対応していく必要があると考えた。	【成果指標】（教員） 危機管理マニュアルを見直すことで、日頃から児童生徒の安全に対する意識を持ち、災害や非常事態時が起きた時に落ち着いて状況に応じた行動をとれると感じることができたか把握する。	日頃から児童生徒の安全に対する意識を持ち、災害や非常事態時が起きた時に落ち着いて状況に応じた行動をとれると感じることができたと回答した教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	教員にアンケートを実施。「危機管理マニュアルの見直しなどによって、日頃の意識が変わった」と回答した教員の割合は、88%であり、 評価はA 【A：80%以上である。】	仮設校舎への移転に伴い、危機管理マニュアルの見直しや、スクールバス緊急時マニュアル（交通事故発生時）のページの追加を行った。また、災害用伝言ダイヤルを児童生徒・保護者が体験した。実際に災害が起きたときにこれらのことも合わせて行動できるようにしていきたい。